

2024年度後期 第5回 リカレント研修会

数字で診る口腔： 客観的な定量検査による これからの歯科診療

広島大学病院 口腔先端治療開発学
教授 加治屋 幹人 先生



講演内容

- ✓ これまでの歯科における検査(主観的評価)の問題点
- ✓ 数値化できる口腔検査(客観的評価)の効果
- ✓ 現在使用できる口腔検査とこれからの歯科診療

日時

LIVE配信

2 / 20 (木) 19:00 ▶ 20:30

オンデマンド配信

2月28日 (金) ~ 3月9日 (日)

開催方法

オンライン開催 (Zoom)

LIVE配信日の2日前までに、
ご登録のメールアドレスへ送信します

講演の要約

従来の歯科診療では、主観的な評価に基づく診断や治療効果の判定が一般的でした。そのため、治療が本当に適切だったのか不明なまま終わるケースが見受けられます。また、術者が自身の治療成果に満足していても、患者には十分に伝わらず、不満に感じられていることもあります。さらに、近年の医療体制では、医師や看護師をはじめとする多くのコメディカルスタッフと連携し、口腔の状態を正確に伝えることが重要となっています。しかし、主観的な評価に頼る限り、他職種に対して口腔の情報を正確に伝えることは困難です。

この問題を解決するためには、数値化による評価が有効です。客観的で具体的な数値は、歯科医師、患者、コメディカル全員に共通して理解可能であり、治療効果も数値で示すことで共通の見解を得ることができます。このような背景から、歯科領域でも数値化できる検査法が少しずつ増え、保険適用されるようになってきました。本講演では、客観的な評価に役立つ口腔検査をいくつか紹介し、将来の歯科医療の変化について考察します。